

小中英語研究部会 小学校第6学年 指導案

授業日：令和3年10月28日

公開校：高山市立久々野小学校

授業者：和田 優美

ALT：Noah Tomlin

1 単元名

Blue Sky 6

Unit 7 『I want to be a vet. 将来の夢・職業』

2 単元について

(1) 題材について

本単元は、「将来の夢」を題材として取り上げ、自分が将来つきたい職業とその理由を紹介し合う活動を行う。いろいろな職業に触れ、他者の考えを聞くことで、小学校卒業を約半年後に控えた児童が自分の将来について考えるきっかけとしたい。また、ここではつきたい職業の理由として、既習表現を用いて「できること、得意なこと、したいこと、自分の性格や特長」などを伝え合う。それぞれの夢を伝え合い、認め合い、励まし合うことで、自分自身や仲間のよさに気づいたり、新たな発見をしたりすることができ、交流の楽しさや達成感を味わえるのではないかと考える。

(2) 単元で育む資質・能力について

本単元では、これまでに学習したことを積極的に用いて、相手や他者に配慮しながら、自分のことを伝えようとする態度を育みたい。自分の将来の夢を伝える場面で、地域の方や中学校の先輩に自分のよさを伝えようと、内容や表現の仕方を工夫する姿を生み出す。そこで、単位時間の役割を明確にし、単元を通して目指す姿に迫ることができるよう指導過程の在り方を工夫した。単元指導計画には、「単元の終末に目指す児童の姿」の具体となる英語表現を示すことで、「指導すべきことは何か」、「そのためにどんな手立てを講じればよいのか」を明確にした。I like ..., I can ..., I am good at ..., I am ..., I want to ...などの既習表現を、Small Talk や Let's Play など意図的に使用する場を繰り返し設定することにより、自分のよさを伝えるためにこれまでに学んだ表現を使うことができるということに気づかせたい。また、単元の終末に近づくにつれ、児童の発話が多くなるような構成とした。児童の自然な英語の発話を促すために、まず教師とのやりとりを通して英語の音声を十分にインプットする場を位置づけ、その後、段階的にアウトプットする場を仕組むようにした。

3 児童の実態

男子11名、女子15名の計26名が在籍しており、学習意欲の高いクラスである。外国語学習においても、主体的に取り組むことができ、英語が得意な児童が苦手な児童をフォローするなど、教え合い、高め合う雰囲気がある。そのため、Unit3 『I want a big park in our town. 自分たちの町・地域』の学習では、苦手な児童も自分の住む地域をよりよくするための提案を、全体の場で行うことができた。

学級全体として、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を的確に理解することができ、よりよい内容や表現を求めて、進んで教師に質問したり、仲間と交流したりする姿が見られる。また、すべての英語表現の意味が分からない中でも、これまでに学習したことをもとに、推測しながら考える力も伸びてきている。その一方で、児童の中には、聞き手を意識することができず、一方的に話す姿も見られる。目指す姿に到達している児童を紹介し、価値づけることで、さらに力を高めていきたいと感じている。

4 研究主題に関わって

〈研究主題〉

「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
～活動を通して習得し（思考しながら表現し）、仲間と共に高まる子どもの育成～

〈キーワード〉 Learn by doing

（１）主体性を生み出す準備と指導（つきたい力の明確化、魅力ある課題や活動）

本単元は、全8時間である。第1時と第2時では、職業を表す語彙や表現を、第3時と第4時では、将来つきたい職業やその理由を表す表現を学習する。第5時から第7時までは、それまでに学習した表現を使って、やり取りをしたりスピーチをしたり書いたりして、将来の夢と自分のよさを発信する。同じ表現を繰り返し学ぶため、「本時は何を、どこまでできるようになればよいのか」を考え、ねらいや評価規準を設定している。

本単元の終末には、『地域の方や中学校の先輩に向けて、将来の夢と自分のよさを発信する』という言語活動を設定している。第1時には、児童とのやりとりの中で教師がゴールとなる活動を実際にやってみせることで、児童が単元の見通しをもてるようにする。また、総合的な学習の時間に「久々野の宝」について学んでいる児童が、自分たちの存在もまた地域の宝であり、多くの人たちが自分たちのことを応援してくれているということにも気づくことができるよう、支所や中学校との連携を図っていく。

（２）思考しながら表現するための指導過程（学び合いのある協働活動）

Sharing Time では、Activity の中で児童が抱いた困り感を全体で共有し、言いたいけれど言えなかったことを表現するための英語表現を想起する場を設けている。また、単位時間の役割によっては、目指す姿に到達している児童の姿を紹介し、そのよさを広めるために Sharing Time を仕組んでいる。また、第6時には、スピーチの様子を児童同士が撮影する。その動画の中から自分が見たい動画を選んで視聴することで、仲間のよさを取り入れ、児童自身が自分の学びを調整できるようにする。

（３）次の学びに向かう力の育成（内容、表現、技能の見届け）

各単位時間の Good Job Time において、内容面でのふりかえりを行う。児童がやり取りをして分かったことを確かめることで、コミュニケーションを行う意味や意義を感じさせたり、その言語材料がどのような場面で使用されるのか、その言語材料を使うとどのようなことを表現できるのかを理解させたりすることに繋げる。

ICT を活用して、児童が話す様子を撮影し、そのデータを年間通して蓄積する。これにより、児童は自分の伸びを実感し次への意欲をもつことができ、教師は一人一人の学習状況を把握することができる。ねらいが達成できているか毎時間見直すことで、授業改善につなげていきたい。